

昭和学報

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
03(3412)5118
編集発行人 鈴木 円

新年度のスタートにあたって

理事長・総長 坂東眞理子



平成三〇年度、昭和女子大学は新たなスタートを切ります。グローバルビジネス学部に加え、会計ファイナンス学部がスタートしますが、

科がスタートしますが、それ以外の学科でも次の時代へ向けて新しい取り組みが行われています。例えばビジネスデザイン学科には民間企業八二社が加入するインターネット協会と提携したITビジネスコースがスタートします。国際学科には上海交通大学、ソウル女子大学に加え、テンプル大学、ジャパニカンパスとのダブル・ディグリー・プログラムもスタートします。時代の要請にこたえ、本学は常に他の大学がまだ手を付けていない新しい取り組みをしてきました。一九八八年に開校した昭和ポストンは今年で三〇周年を迎えます。全員の留学のプログラムを持つ他大学の先駆けとして知見を蓄積してきました。協定校は世界に三四校となりました。宿泊研修、文化講座な

[H30.4]



昭和女子大学は2020年100周年を迎えます。

どの伝統的なプログラムに加え、社会人女性から人生とキャリアについてアドバイスをいただくネットワーク、海外インターシップ、社会人・実務家の集う現代ビジネス研究所などを設置し、新たな挑戦を続けています。企業や地域と共同で取り組むプロジェクトが現在約二〇〇あり、現実社会とかわる学生も増えています。本学は二一世紀の日本と世界を支える存在として、自ら充実した幸せな人生を送るとともに、周囲の人を幸せにできる女性の育成を目指しています。

す。言われたことをするだけでなく、自ら考え問題に気付き、優先順位をつけて行動し、挫折しても立ち上がり、最後までやり遂げる力を身につけます。そのために多くのプログラムを用意し、教職員は一人一人の学生をサポートしています。その成果が七年連続全国女子大トップの高い就職率や、多くの大会での受賞等に結び付いています。志願者数は全国女子大のトップになりました。文部科学省グローバル人材育成推進事業でもただ一校、Sと評価されています。学生たちが入学時より四年間の様々な経験で自信と力をつけ大きく成長し、卒業する大学として本学も挑戦と変革を重ねていきます。

創造力と考える力を鍛える

学長 金子朝子



インターネットの出現は、私たちの知識の創造とコミュニケーションに革命的な進歩をもたらしました。あらゆるモノがネットワークに繋が

多量の情報を処理することで、新たなサービスや価値が生み出されています。コンピュータの性能も飛躍的に伸び、すでに、人工知能が人間のパートナーになる時代に突入しています。AIに人が使われるのではなく、私たちがAIを上手に活用するためには、コンピュータではなく人ならではの創造力を生かす必要があります。人ならではの「創造力」とは、これまでとは違うものを思いつく「発想力」、人の気持ちを感じる力や芸術的なセンスなど、物事を感じとることのできる「感性」、そして他者と上手に関わることでできる「豊かな人間性」を指します。こうした力を鍛えることが、創造力を養うことに繋がります。そして、もちろん、それを支える心身の健康を保つことも大切です。

[H30.4]

ということは、AI時代に必要なのは、コンピュータですぐに調べることが可能な「銀行型学習」でため込んだ知識の「預金」ではなく、人ならではの創造力を活かした考える力ということになります。未知の課題の解決のためには、借り物の知識だけでは役に立ちません。本学で行われているさまざまなプロジェクト学習は、これからの時代に必要なる力を付けるための絶好の機会を与えてくれます。チームで批判的に課題に向かい、多様な人々とコミュニケーション

の四名である。最優秀賞 袖山 かれん (環境) 高橋 悦子 (中高部) 砂川 葉 (環境) 長谷雄 翠 (職員) 審査員からは、「学園の一〇〇周年を祝うために深く考えられた作品ばかりであった。中でも、色と形のバランスが良く、未来を見据えたデザインとなっているものを入賞作品として選出した」との講評があった。

最優秀賞の袖山さんは「一〇〇」を囲う様に羽を描くことで、本学で学んだ女性達が世界で活躍して欲しいという願いを込めた。今後、様々な場所で使用されることを楽しみにしている」と述べた。最優秀作品は、シンボルマーク原案として採用され、完成後は学内外の様々な場所で使用される予定だ。

一〇〇周年特設サイト <https://swu.ac.jp/100th/> (一〇〇周年委員会)

ダブル・ディグリー 一期生卒業する

去る三月、国際学科の学生一〇名が本学と上海交通大学の学位を取得して卒業した。国家重点大学である同大で二年、本学で三年間学んだすえの栄誉である。

五年前の入学当初、一〇名のなかに中国語のできる学生は一人もいなかった。全員が大学ではじめて中国語に接し、わずか一年半で、ダブル・ディグリーの参加資格である漢語水平考試(HSK)五級を取得した。英語検定試験にたどるながら、ABCを学びはじめた初学者がわずか一年半で準一級を取得するにひときわ快挙であった。

しかし、たった一年半の学習歴では、中国語で進行する講義を十全に聴解できるはずもない。二

年後期からはじまった留学生活は困難をきわめた。途中で放棄したい誘惑に耐えつつ、学生たちは励ましあいながら勉強をつづけ、今日の栄冠を勝ちとったのである。

発案から協定をへて第一期生が卒業するまで約七年のあいだに、学科長は三人がつとめた。初代が種をまき、二代が水をやり、三代でようやく収穫をむかえることができたと見えるだろう。その間、関係各位にはひとかたならず、お世話になった。記して感謝する次第である。

(国際学科長 李 守)



去る三月、国際学科の学生一〇名が本学と上海交通大学の学位を取得して卒業した。国家重点大学である同大で二年、本学で三年間学んだすえの栄誉である。

五年前の入学当初、一〇名のなかに中国語のできる学生は一人もいなかった。全員が大学ではじめて中国語に接し、わずか一年半で、ダブル・ディグリーの参加資格である漢語水平考試(HSK)五級を取得した。英語検定試験にたどるながら、ABCを学びはじめた初学者がわずか一年半で準一級を取得するにひときわ快挙であった。

しかし、たった一年半の学習歴では、中国語で進行する講義を十全に聴解できるはずもない。二

創立二〇〇周年シンボルマーク(原案)決定 表彰式を開催

[H30.2]



写真前列右より長谷雄さん、高橋さん、坂東理事長・総長、袖山さん、砂川さん



袖山さん



高橋さん



砂川さん



長谷雄さん

一二月二〇日、創立二〇〇周年シンボルマーク(原案)の表彰式を行った。応募総数は九一作品(大学六五作品、中高部八作品、教職員一八作品)。入賞者は次の四名である。

最優秀賞 袖山 かれん (環境) 高橋 悦子 (中高部) 砂川 葉 (環境) 長谷雄 翠 (職員) 審査員からは、「学園の一〇〇周年を祝うために深く考えられた作品ばかりであった。中でも、色と形のバランスが良く、未来を見据えたデザインとなっているものを入賞作品として選出した」との講評があった。

最優秀賞の袖山さんは「一〇〇」を囲う様に羽を描くことで、本学で学んだ女性達が世界で活躍して欲しいという願いを込めた。今後、様々な場所で使用されることを楽しみにしている」と述べた。最優秀作品は、シンボルマーク原案として採用され、完成後は学内外の様々な場所で使用される予定だ。

一〇〇周年特設サイト <https://swu.ac.jp/100th/> (一〇〇周年委員会)

平成二九年度卒業式を挙

[H30.4]



告辞 理事長・総長 坂東真理子

三月一六日(金)、創立者記念講堂にて平成二九年度卒業式を挙

九時三〇分から人間社会学部と生活科学部の、一三時三〇分から大学院と人間文化学部、グローバルビジネス学部の式典を執り行った。今年度は、国際学科のダブル・ディグリー・プログラムから初の修士生が一〇名卒業した。上海交通大学の卒業証書は、同大党書記劉建新氏より授与され、黄震副校長の祝辞をご紹介いただいた。また、中華人民共和国駐日本国大使館の汪婉参事官からも祝辞をいただいた。あいにくの天候にも負けず、一三〇名の卒業生が、新たな人生のステージへの期待を胸に大きな一歩を踏み出した。

皆さんが一年生の時に本学で講演していただいたキャロライン・ケネディ駐日大使は、講演の中で「女性が世界を変える」と言ってくださいます。とりわけこの昭和女子大学で、皆さんが教育を受けることができたのは幸運であったといえます。マンモス大学と異なり丁寧な教育が行われ、



卒業生のみなさん、そして保護者の方々、また教職員すべての方におめでとくと申しあげます。

式辞 学長 金子朝子



ご卒業おめでとうございます。皆さんは、文部

科学省から私立女子大学として唯一選定された「グローバル人材育成推進事業」の先頭となって国内外で活躍し、本学の新しい歴史の始まりを飾る上海交通大学とのダブル・ディグリー取得者を一〇名輩出するなど、大きな成長を遂げられました。

順風満帆とは言えない前半生を送ったハリ・ポッター・シリーズの著者、J.K.ローリングの、ハーバード大学卒業式でのスピーチの一部を皆さんに贈ります。

「全く失敗しないためには、常に逃げ腰になつて、こっそり生きるしかありません。でも、そんな人生など初めから失敗です。もしタイムマシンがあったら、私は二一歳の

頃の自分に、幸福な人生とは成功のリストではないと伝えたいのです。何に生まれるかより、何になるかのほうがはるかに大切なのです。度胸さえあれば不可能はありません。」

自分は、自分の主人公世界でただ一人の自分を創っていく責任者です。これからも、それぞれの夢に向かって、逞しく前進を続けてください。

平成三〇年度入学式を挙

[H30.5]



告辞

理事長・総長 坂東真理子

四月二日(月)、創立者記念講堂で入学式を挙

四月二日(月)、創立者記念講堂で入学式を挙

四月二日(月)、創立者記念講堂で入学式を挙

式辞

学長 金子朝子



二〇二〇年に創立一〇〇周年を迎える本校は、人間性を涵養する学寮研修、女性教養講座、文化研究講座などの伝統的なプログラムを続けるとともに、21世紀の社会を支える人材を育成するために変革を続けています。

社会のニーズに応える学部・学科を新設し、現代ビジネス研究所、社会人メンター制度、リエゾンセンターなどを作り、企業や地域との共同プロジェクトなど学生に多くの機会を提供しています。

共学の大学との違いは昭和女子大学では知識やスキルを教えるだけでなくそれをどう活用し、自分と社会に役だてるかを伝えていることです。

ヤリア教育はその一環でそれが高い就職率に結びついています。

グローバルに通用する力をつけることも大事なことです。ポストンキャンパスは今年度三〇周年、テンプル大学ジャパン、上海交通大学など協定校もたくさんあります。長短の海外研修、留学、ダブル・ディグリーなど様々な機会があるのでチャレンジしてほしいと思います。

大学では自分で選択し、機会を活用することが大事です。正解がなかったり正解が複数ある現実と向き合い、挫折を克服し最後までやり通す力を身につけて、実り多い大学生を送ってほしいと思います。

人口知能が人間のパートナーとなる時代に、人がAIを使うには、人ならではの「創造力」が必要です。多様な見方や考え方に触れ、正解のない問いに答えを導くために、「自分軸」を持ちましょう。

先輩達はプロジェクト活動を通して未来に通じる創造力を養っています。現代ビジネス研究所や昭和リエゾンセンターで、企業・行政機関との協働プロジェクトや地域貢献・ボランティア活動など多彩な活動を行っています。本学独自の社会人メンター制度も活発で、そうした成果が、千名以上の卒業生を持つ女子大学で七年連続就職率トッ

プに繋がっています。

ポストン校では、毎年五百名もの学生が広い視野とコミュニケーション力、他者尊重と自分への自信を育みます。海外留学、ダブル・ディグリー取得など、学びの場は世界に拡がり、テンプル大学ジャパンキャンパスも来年本学西キャンパスに移転します。グローバルな環境を大いに楽しみ、活用して下さい。

社会を生き抜く力を持ち、未来への飛躍を実現できる若者が必要です。「創造力」とAIを活用する「自分軸」を持ち、日本や世界で貢献できる女性に成長することを期待しています。

創立九八周年記念式典を挙

五月一日(火)、雲ひとつない晴天のもと創立者記念講堂にて創立記念式典を挙行した。昭和学園は、人見圓吉先生が女子教育の理想を掲げ歩みはじめてから今年で九八年を迎えた。式典では、中高部生徒一七五名による「新しき日」の美しい歌声が披露された。坂東眞理子理事長・総長の式辞の後、心理学科三年沼澤香奈さんと霞紫帆さんのナレーションによるスライド「学園の創立によせて」とともに学園の歩みを振り返った。



[H30.6]

西キャンパス(仮称)整備計画地鎮祭を挙

三月二三日(火)、新築・施工関係者約四〇名が列席し、工事の安全を祈念した。西キャンパス(仮称)の新校舎は、平成三二年七月末に完成の予定で、ブルース・ストロナク学長など大学や建



[H30.5]

地域連携センター公開講座「ジェイン・オースティンと女性たち」を聴講して

今年、イギリスの小説家ジェイン・オースティンの没後二〇〇年の記念の年であり、イギリスでは彼女の肖像入りの一〇ポンド札が発行された。私は子供の頃から一八・一九世紀のイギリスを背景とした作品が好きで、ジェイン・オースティン『高慢と偏見』は愛読書のひとつであった。作品には、当時のイギリス社交界を描写した場面が多く、私には理解できないことが多くあつたが、金子弥生先生による本講座を聴講し、当時の階級制度や男女の社会的地位、出会いの場である「舞踏会」など、今はない文化について理解を深めることができた。時代や社会的背景が異なっても、現代の読者が作品を楽しめるのは、普遍的な魅力があるためである。ぜひ、皆さんにも一読をお勧めしたい。(ジジネス TEE XINJEE)

先哲の慰霊祭

一〇月五日、先哲の慰霊祭を行った。式には、坂東眞理子理事長・総長、金子朝子学長をはじめ、諸先生方、大学学友会執行部、附属生徒・児童・園児の代表者が参列した。まず、逝去された先生方のご紹介があり、理事長講話、献花等に続き、参列者全員で黙祷を捧げた。亡くなられた先生方への追慕の念と共に、学園の創立当初を思いつつ、今後の学園発展の精進を誓い合った。

- 永岡 敦 先生 元 外国語科 専任講師
- 佐野 武仁 先生 元 環境デザイン学科 教授
- 野々山 三枝 先生 元 近代文化研究所 専任講師
- 内須川 洸 先生 元 心理学科 教授
- 川原田 璋 先生 元 生活科学科 教授
- 横山 淳一 先生 元 日本語日本文学科 非常勤講師
- 副田 悦子 先生 元 初等部 教諭
- 渡辺 和子 先生 元 客員教授
- 内田 啓一 先生 元 歴史文化化学科 教授
- 渡辺 弘一郎 先生 元 国文学科 教授

墓前祭

本学は、戦災により中野から現在の世田谷区太子堂に移転した一月九日を復興記念日としている。一〇月五日の先哲の慰霊祭に続き、一月八日には松陰神社の恩師・同窓の墓前に附属校園児・児童・生徒の代表と



大学の前祭

大学の学生代表が集い墓前祭を行っている。本年の墓前祭では、恩師・理事・職員・大学同窓・中高同窓・初等部同窓の一三四柱が合祀された。式には、ご遺族の方々も参列され、坂東眞理子理事長・総長の講話の後、学友会執行部の代表学生が、先人への感謝の意を表すとともに、

クスノキ募金がスタート

学内に写真のようなボックスが置かれているのに、お気づきの方もいるだろうか。この春から「クスノキ募金」がスタートした。同募金は、提供された書籍等(CD・DVD・ゲームソフト含む)の買取金額が学園に寄付される。学生・生徒・児童の支援に役立てられる。インターネットや電話でも申し込み可能だ。ぜひ、ご協力いただきたい。(昭和女子大学 サポーターズ・クラブ)



[H30.5]

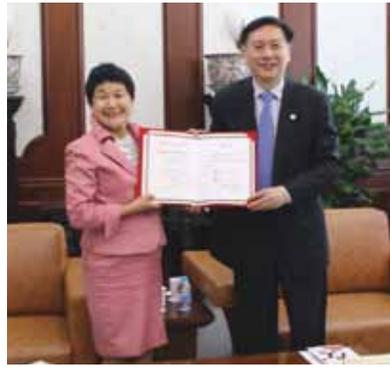
坂東眞理子理事長・総長 上海交通大学 日本研究センター顧問就任

[H30.7]

このほど、大学の長年の協定校である上海交通大学で日本研究センターが設立され、坂東眞理子理事長・総長が顧問に就任した。坂東理事長・総長は、五月三日、同大学を訪れ、姜憲憲党委書記より任命状を授与された。

同センターは日本の社会、政治、経済、法制度などを研究する新しい研究拠点として、国の支援のもとに立ち上げられたプロジェクトである。上海交通大学の凱原法学院（法科大学院）の教授を中心に構成され、日本の政治家や学者なども研究員として参加する。坂東理事長・総長は、専門である女性問題の分野で、日本の法制度や行政の取り組みに関する研究成果を紹介するなど、同センターの発展に貢献していく。

本学は、一九九二年の姉妹校協定締結以来、



姜党委書記から任命状を授けられる坂東理事長・総長

同センターは日本の社会、政治、経済、法制度などを研究する新しい研究拠点として、国の支援のもとに立ち上げられたプロジェクトである。上海交通大学の凱原法学院（法科大学院）の教授を中心に構成され、日本の政治家や学者なども研究員として参加する。坂東理事長・総長は、専門である女性問題の分野で、日本の法制度や行政の取り組みに関する研究成果を紹介するなど、同センターの発展に貢献していく。

本学は、一九九二年の姉妹校協定締結以来、



上海交通大学正門前で

同大学とさまざまな交流を続けており、昨年度は初のダブル・ディグリーの学位取得生一〇名の卒業生が誕生した。今後は、このような学生交流のみならず、研究交流の分野でも同大学とのパートナーシップが深まっていくことが期待される。

(国際交流課)

◆春の特別展◆「図書館七〇周年・近代文庫六〇周年記念 ことばのいろいろことばのおとく人見東明と白秋・露風の詩の世界」開催

[H30.7]

春の特別展は、六月一日、光葉博物館前でのオープニングセレモニーとともに開会。安蔵博物館長、古川図書館長、吉田



副学長（特別展代表）の挨拶、坂東理事長・総長、金子学長の祝辞の後、テープカットが行われた。この展覧会は、創立者人見圓吉（筆名東明）の詩人としての活躍と、『近代文学研究叢書』刊行に尽力し、「近代文庫」を創設した教育者としての偉業を見つめなおす機会となった。新しい詩の世界を繰り広げた東明・白秋・露風のそれぞれの作風は、多数の貴重資料によって紹介され、自筆草稿、初

現代ビジネス研究所ダイバーシティ推進機構 シンポジウムを開催

[H30.2]

二月二日、「現代ビジネス研究所とダイバーシティ推進機構共催のシンポジウム」が日本で活躍する企業のダイバーシティの取り組みが三部構成で開催された。第一部は、内閣府の方からダイバーシティの我が国の現状についての報告があった。第二部では、ダイバーシティを推進している企業四社（日本マクドナルド・カルビー・城南信用金庫・SMB C信託銀行）の方をお招きし、各社の取り組みについて伺った。第三部では、ダイバーシティの発展を促すこと、ここには、社会人の方と学生がチームを作り、



「自分の会社でダイバーシティを推進したい」という思いを込めて、シンポジウムに参加した。企業がどのような取り組みをしているのか、現場における「生の声」を聞くことができ、大変有意義な時間となった。

平成三〇年度 保護者懇談会

[H30.2]



六月二六日（土）、あいにくの雨だったが、五〇〇名を超える三年生の保護者にご参加いただいた。第一部は、坂東眞理子理事長・総長の「挨拶と本学の現在」、次に、金子朝子学長から「本学の教育」について話があった。磯野彰彦キャリア支援部長から、「就職活動の現状と就職サポート」、鈴木本多ハワード素子

六月二六日（土）、あいにくの雨だったが、五〇〇名を超える三年生の保護者にご参加いただいた。第一部は、坂東眞理子理事長・総長の「挨拶と本学の現在」、次に、金子朝子学長から「本学の教育」について話があった。磯野彰彦キャリア支援部長から、「就職活動の現状と就職サポート」、鈴木本多ハワード素子

グローバルビジネス学部 会計ファイナンス学科を新設

[H30.4]

平成三〇年四月にグローバルビジネス学部の二つ目の学科として「会計ファイナンス学科」が誕生した。会計は「ビジネスの言語」であるといわれる。それにファイナンスを加えることで、お金の流れから社会を体系的に理解することを主眼としている。会計およびファイナンスは「ビジネスリテラシー」であり、企業経営においては必要不可欠な分野である。さらに、ファイナンスは企業経営だけでなく個人の家計、資産形成においても重要な知識を提供する。このような分野を専門に勉強する学科が遂に女子大に登場したわけである。

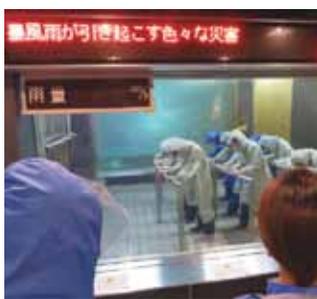
本学科では簿記やファイナンスプランナーの資格取得を目指しながら、プロジェクト活動などを通じて、学んだ知識を「使えるものに変える」ことに重点を置く。教員も公認会計士やファイナンスプランナー、証券アナリスト、ファイナンスプランナー、ファイナンシャルプランナーなどといった実務家出身で、かつ、MBAや博士の学位を取得している者で構成されており、理論と実践の架け橋となる授業が可能である。更に、女子大初の「株式仮想売買シミュレーションシステム」も導入されており、臨場感あふれる実践的な学びが展開される。

しかし、いくら専門的な能力や資格を獲得したとしても、社会に出て重要なのは「優れた人間性」である。本学科ではゼミ活動など様々な機会を活用して、「優れた人間性」の育成にも充分配慮し、高度なスキルを有したビジネス・パーソンをグローバル社会に送り出したい。

(会計ファイナンス学科長 山田 隆)

防災体験・浅草散策ツアー

[H30.4]



六月三〇日（土）、イタリアから二人、台湾から一人、三人の留学生とともに、日本人学生二六人、教職員五人、総勢三四人で本所防災館で防災体験と浅草散策ツアーに参加した。つい先日、大阪で死者を伴う地震が起きた。世界中どこにいても、いつどんな災害が起こるかにはわからない。地震大国日本では私達同様、留学生も防災意識を持つべきだと思ふ。防災館では地震、暴風雨など実際に起きる災害を想定した様々なシミュレーション体験をすることができた。私

の中で、暴風雨は地震等に比べてそこまで危険なイメージがなく、家の中にいれば安全だという認識だったが、風速30mの暴風雨体験は想像以上に危険で恐怖を覚えた。自然の猛威にはかなわないという胸に刻み、自分の安全を願った。

(英コミ 横手野枝)

新入生歓迎 オリエンテーション 4月2日~10日 [H30.5]



4月2日(月)の入学式から約1週間、大学への理解を深め4年間の学生生活を円滑に送ることができるよう新入生歓迎オリエンテーションを実施した。各種ガイダンスをはじめ、上級生懇談会やプレゼンテーション、学科主催夕食会など盛りだくさんの内容で親睦を深めた。6日(金)には、創立者記念講堂で学友会や秋桜祭実行委員会、クラブ連合委員会による「新入生歓迎フェスタ」も開催され各団体から新入生へ熱いメッセージを送った。
新入生に感想と、学生生活への抱負を聞いた。



**心地よい
春の風が吹く**
四月二日、これから始まる新しい生活への期待



四月二日、これから始まる新しい生活への期待
上級生主催の懇談会で

と不安を胸に、昭和女子大学の入学式を迎えた。翌日から始まったオリエンテーション期間では、高校と大学の大きな違いに戸惑いつつも、先生方や先輩方のご指導により少しずつ慣れてきた。学科主催の夕食会では、食事を楽しみつつ、先生方のお話や先輩方が作成してくださったスライドにより福祉社会学科への理解を深めることができた。まだ話したくない人とも話すよい機会になり、とても有意義な時間を過ごせた。



期待
暖かな春の光の中、慣れないスーツに身を包み四月二日の入学式を迎え

た。つい先日まで高校生を送っていた私は、これから始まる新生活への期待と、授業についていけるだろうかという不安が入り混じった複雑な思いでいた。入学式直後から始まったオリエンテーション期間では、今までにない新鮮な経験がたくさんありました。五修生として入学した為、一つ上の先輩方と上手く馴染めるだろうかと不安で一杯だったが、すぐに溶け込むことができ安心した。ガイダンスでは一気に

た。つい先日まで高校生を送っていた私は、これから始まる新生活への期待と、授業についていけるだろうかという不安が入り混じった複雑な思いでいた。入学式直後から始まったオリエンテーション期間では、今までにない新鮮な経験がたくさんありました。五修生として入学した為、一つ上の先輩方と上手く馴染めるだろうかと不安で一杯だったが、すぐに溶け込むことができ安心した。ガイダンスでは一気に

が行き交い、疲れてしまふこともあった。しかし、友人とお昼休みに学食に行ったり、放課後にお茶をしながら語り合うことで、心配だった履修登録も楽しく終えることができた。間もなく行われる学科主催の夕食会や、いよいよ始まる授業、サークル活動、その他、友人と三軒茶屋のお洒落なカフェ巡りも計画中で、今からとても楽しみにしている。そして何より、私の夢であるポストン留学に向けて、今までもより更に英語力を高めていけるように頑張りたいと思う。

は、大学生活や履修などについての疑問に先輩方が親身になって答えてくださった。なかなかこういう機会はないため、今回いただいた知識や情報はとても貴重に感じた。知識は活かさなければ意味がないので、先輩方に教えていただいたことに感謝し、これからの大学生活に役立てていきたい。
大学という場所は、卒業できるかどうか全て己の責任次第である。そのため、一つ一つの授業に高校以上の重みを感じた。資格取得のためにも、己を鼓舞し、目標に向かって日々邁進していきたい。

は、大学生活や履修などについての疑問に先輩方が親身になって答えてくださった。なかなかこういう機会はないため、今回いただいた知識や情報はとても貴重に感じた。知識は活かさなければ意味がないので、先輩方に教えていただいたことに感謝し、これからの大学生活に役立てていきたい。
大学という場所は、卒業できるかどうか全て己の責任次第である。そのため、一つ一つの授業に高校以上の重みを感じた。資格取得のためにも、己を鼓舞し、目標に向かって日々邁進していきたい。

は、大学生活や履修などについての疑問に先輩方が親身になって答えてくださった。なかなかこういう機会はないため、今回いただいた知識や情報はとても貴重に感じた。知識は活かさなければ意味がないので、先輩方に教えていただいたことに感謝し、これからの大学生活に役立てていきたい。
大学という場所は、卒業できるかどうか全て己の責任次第である。そのため、一つ一つの授業に高校以上の重みを感じた。資格取得のためにも、己を鼓舞し、目標に向かって日々邁進していきたい。

新入生歓迎フェスタ実行委員長近さんのあいさつ

**新入生歓迎フェスタを終えて
——新入生の皆さんへ——**
四月六日、学友会執行部・秋桜祭実行委員会・クラブ連合委員会が主催する「新入生歓迎フェスタ」を創立者記念講堂で開催した。一時間二十五分にわたり、二十四の委員会・クラブ・サークルが活動内容を発表した。発表が一団体三分という短い時間ではあったが、各々の魅力を新入生に伝



未来の自分探しへ出発!
暖かな春の陽射しがふりそそぐ四月二日、不安と期待を抱えながら入学の日を迎えた。翌日から始まった一週間のオリエンテーションでは、先生方から丁寧なアドバイスをいただき、これから始まる学校生活への不安が自信に変わっていった。

ダンスや歌で街全体の活性化を目指すENCOREのパフォーマンス

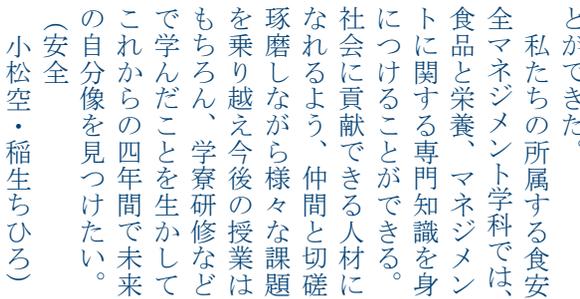
えようと工夫を凝らし、無事最高の発表を行うことができた。新入生も拍手や歓声で大いに盛り上げてくれた。春休み中からの打ち合わせやリハールが成功に繋がったと思う。発表のあい間に団体からのプレゼントが当

四月五日、学科主催の昼食会では、先輩方が用意してくださった美味しいお弁当を食べながら、学科や学寮、クラスアドバイザーの先生の紹介を聞いたり、班全員で工夫してケーキのデコレーションをしたりして、クラ

私たちが所属する食安全マネジメント学科では、食品と栄養、マネジメントに関する専門知識を身につけることができる。社会に貢献できる人材になれるよう、仲間と切磋琢磨しながら様々な課題を乗り越え今後の授業はもちろん、学寮研修などで学んだことを生かしてこれからの四年間で未来の自分像を見つけた。(安全 小松空・稲生ちひろ)

千本桜をポップにアレンジして演奏する生田流箏曲部

たる抽選会も行った。抽選で当選した新入生に先輩から直接プレゼントが手渡され、嬉しそうな笑顔を見ることができた。新入生には大切な仲間をつくり、たくさんのごとに挑戦し、学生生活を輝かせてほしいと思う。充実した経験が将来にも結びつくことを祈る。(委員長 近佳那子)



私たちが所属する食安全マネジメント学科では、食品と栄養、マネジメントに関する専門知識を身につけることができる。社会に貢献できる人材になれるよう、仲間と切磋琢磨しながら様々な課題を乗り越え今後の授業はもちろん、学寮研修などで学んだことを生かしてこれからの四年間で未来の自分像を見つけた。(安全 小松空・稲生ちひろ)

インターンシップ報告

[H29.11]

◆フェデックスエクスプレス

私は、国際貨物輸送のフェデックスエクスプレスで、八月五日から一九日までの約二週間のインターンシップに参加した。大変充実した二週間であったという間に過ぎた。



配達業務のOJTを受ける市川さん

私は、このインターンシップを通して、主に二つのことを学んだ。一つ目は、物流業界についてである。上屋業務や通関業務、配達業務のOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)

を通して、貨物がお客様のもとへ届けられる過程を学び、物流についての知識を深めることができた。物流業界に抱いていた重労働と

この夏のキャリア支援

[H30.7]

五月一六日(水)に二〇二〇年三月卒業予定者を対象とした「第一回就職ガイダンス」を開催し、リクルート就職みらい研究所の方とキャリア支援センター職員が、採用選考活動の日程や求人NAV Iの利用方法等を説明し、現三年生への就活支援が始まった。

今年の就職環境は、売り手市場が続いているものの、選考の短縮化・内定の早期化や、メガバンクでの採用数の大幅減少など、これまでの状況に変化が見られる。こうした中、多くの企業が選考の序盤に実施す

というイメージが変わり、チーム全体が一つとなって仕事に取り組むことが物流の大きな魅力だと知った。二つ目は、チーム力である。多くのグループワークやプレゼンテーションでは、他大学の学生と一緒に一つのこ

◆株式会社岡村製作所

(英コミ 市川実咲)

私は株式会社岡村製作所で、営業のインターンシップに参加した。岡村製作所は大手オフィス家具メーカーで、オフィス家具以外にも、お店の什器や、物流に関わる機械も製造している。インターンシップ期間は五日間で、私はオフィス家具の営業同行を主に体験さ

せて頂いた。営業同行では、営業担当の方ととも顧客の方を訪ねた。顧客の方のお話を聴いて、どんなことや、ものを必要としているのかを引き出すのが営業の仕事だということを知った。また同社は、自社の商品を売るだけでなく、オフィスのレイアウトや、

インターンシップ成果発表会2017で優秀賞

[H30.2]

一二月六日に日本インターンシップ推進協会が開催した「インターンシップ成果発表会2017」にて、私は理系部門で優秀賞をいただいた。スーパーゼネコンでの業務に興味があったため、学校推薦で大成建設

株式会社へのインターンシップに申し込み、九月上旬の一〇日間、水族館の設計を行っている部署で、模型制作と水族館の現場視察の研修に参加した。その後、キャリア支援センターから勧められ、成果発表会に参加するこ



現場視察した「サンシャイン水族館」の天空ペンギンは、昨年7月にオープンし、話題を集めている



研修でお世話になった大成建設の猪里室長(右)と

とになった。十一月の秋桜祭に向けて研究室での空間展示の準備に追われ、その翌週には学寮研修に参加したりと、思うように時間が取れない中、報告書と発表会原稿、パワーポイント資料を作成した。発表会当日は、お世話になった大成建設の猪里孝司企画推進室長にもご列席いただいた。大変緊張したが発表を無事に終え、理系部門にて同率首位で優秀賞をいただくことができた。とても夢のある体験をさせていただいた大成建設の皆様へ感謝する。(環境 長嶋星奈)



見積書の作成体験をする大橋さん

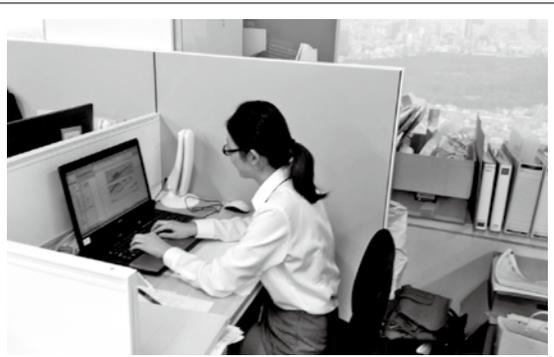
◆大成建設株式会社

(心理 大橋めぐみ)

私は八月二日から九月一日までの二週間、大手総合建設会社である大成建設株式会社でのインターンシップに参加した。

私は設計二部という、主に空港の意匠設計を行っている部署に配属された。環境デザイン学科では建築を学んでおり、将来的

ども行っている。営業同行の他に、岡村製作所のショールームや納入先の見学、セールストークのロールプレイング会にも参加した。期間中に五、六名の社員の方の同行し、移動時間などにたくさんお話を伺うことができ、とても充実した時間を過ごすことができた。



パースを作成する飛田さん

には建物のデザイン設計を仕事にしたいと思っっている。インターンシップの期間中は設計の過程やコンペティションにおけるプレゼンテーションの仕方などを教わった。ま

た、資料として建築予定のモデリングのパースを制作した。同社で使用しているモデリングソフトの使用は初めてであったため、大変だったが、手厚くサポートして頂いたおかげで完成させることができた。自分で画面や色合いを考えて制作し、確認して頂くなど、実際の働き方を体験させて頂いた。大学では学べない仕事の奥深さを感じることができ、とても良い経験となった。この経験を活かし、今後は自分の将来を見据え、勉学に励んでいきたい。(環境 飛田知美)

日本航空株式会社との包括的連携に関する基本協定締結

[H29.10]



六月三〇日、本学と日本航空株式会社は、包括的な連携に関する基本協定を締結した。



これは、ビジネスデザイン学科の活動をはじめ、昭和ポストンでの地域交流活動や、学生の就職先としても昨年は六名の学生が社会人としての一歩を踏み出すなどのつながりがあった。協定締結により、絆を一層深めるこ

とが期待される。坂東眞理子理事長・総長は、「平成二四年に同社がポストン直行便を就航して以来、様々な面でお世話になってきた。グローバル人材育成推進や女性の社会的活躍という点からも、本協定が締結されたことは非常に嬉しい。様々な機会に学生とともに社会に資する活動をしていきたい」と挨拶。大川順子代表取締役専務執行役員からは、「全社をあげてグローバル人材育成教育を支援したい。ポストンをはじめ、地域とともに素晴らしいことが成し遂げられればと思う。末永くお付き合いを」とのお話があり、和やかなうちに調印式は終了した。

昭和女子大学の就職率

	昭和女子大学	私立大学女子平均
平成20年度	97.9%	95.1%
平成21年度	94.3%	90.2%
平成22年度	96.1%	89.6%
平成23年度	95.0%	91.7%
平成24年度	96.8%	94.2%
平成25年度	97.8%	94.4%
平成26年度	98.7%	96.4%
平成27年度	98.8%	97.9%
平成28年度	99.1%	98.7%
平成29年度	99.1%	98.7%

卒業生1324人 (就職1258人/希望1270人)

八年連続女子大学 No.1 実就職率96.7%

[H30.7]

二〇一八年三月卒業生の実就職率(就職者数÷卒業生数×100)が卒業生一〇〇〇人以上の全国の国公私立大学の中で五位、八年連続女子大一位になりました。(大学通信調べ)

平成二九年度(平成三〇年三月卒)の就職状況は、前年に引き続き景気の堅調を背景として企業の求人が増え、学生が比較的就職しやすい「売り手市場」の傾向がさらに強まった。本学もその流れに乗り、着実に就職実績を上げた。

文部科学省と厚生労働省が五月一八日に発表した平成二九年度「大学等卒業者の状況調査」(四月一日現在・抽出調査)によると、全国の大学の就職率(就職希望者に占める就職者の割合)は98.0%で、前年同期を

超えた。製造業や金融、サービス業など、全般的に企業の採用意欲は強く、一方、一部の中堅・中小企業は採用予定数を集められなかった。

全国の男女別の数字をみると、女子が98.6%で前年同期を0.2ポイント上回ったのに対し、男子は97.5%で、前年同期を0.6ポイント上回ったが、女子優位は変わらなかった。女子が男子を上回るのはこれで六年連続。

本学の場合、五月下旬に確定値(平成二九年九月卒を含む)をまとめたところ、卒業生1324人のうち就職希望者は1270人、就職者は1258人で、就職率は99.1%だった。これは前年同期と同じ水準で、全国の私立大学女子の平均を0.4ポイント上回り、「就職支援に手厚く、面倒見が良い」という本学への評価を改めて裏付ける結果となった。

当事者である卒業生たちの頑張りに加えて、各学科のキャリア支援部委員やゼミ担当、クラスアドバイザーの先生方とキャリア支援センター職員が緊密に連絡を取り合い、面接が本格化する四年生の四月ころからきめ細かい就活支援を続けた成果といえる。以上の就職率とは別に、就職者を卒業生総数から大学院進学者を差し引いた数で割る「就職率2(実就職率)」で見ると、本学の学部卒業生は96.7%で、前年同

平成29年度 主な就職先一覧

業種	企業名	人数	
建設	旭化成ホームズ	3	
	積水ハウス	3	
	大和ハウス工業	3	
	熊谷組	2	
	五洋建設	2	
	清水建設	2	
	戸田建設	2	
	住友林業	1	
	日揮	1	
	不動産	三井不動産リアルティ	5
		住友不動産販売	1
	製造業	住友電気工業	4
新日鐵住金		3	
住友化学		3	
三菱電機		3	
東ソー		2	
日本航空電子工業		2	
富士通		2	
アルプス電気		1	
伊藤園		1	
エバラ食品工業		1	
花王		1	
GSユアサ		1	
敷島製パン		1	
資生堂		1	
信越化学工業		1	
住友金属鉱山		1	
太平洋セメント		1	
TDK	1		
久光製薬	1		
古河機械金属	1		
明治	1		
ヤクルト本社	1		
ローム	1		
YKK	1		
ワコール	1		
出版・印刷	主婦の友社	1	
	京王百貨店	7	
卸売・小売	三越伊勢丹	5	
	三菱食品	4	
	そごう・西武	2	
	セブン-イレブン・ジャパン	1	
	日立ハイテクノロジーズ	1	

業種	企業名	人数
金融業	みずほフィナンシャルグループ	34
	三菱UFJ銀行	11
	三井住友銀行	6
	あいおいニッセイ同和損害保険	5
	日本生命保険	5
	大和証券	3
	損害保険ジャパン日本興亜	2
	野村證券	2
	三井住友海上火災保険	2
	ゆうちょ銀行	2
	アフラック・エフ・イー・ケイ・エフ・エス・エム・エル・エフ・エル・エフ・エル・エフ	1
	SMB C日興証券	1
	クレディセゾン	1
シティバンク銀行	1	
商工組合中央金庫	1	
信金中央金庫	1	
東京海上日動火災保険	1	
農林中央金庫	1	
三菱UFJ信託銀行	1	
航空・運輸	全日本空輸	8
	小田急電鉄	1
	日本航空	1
	日本通運	1
	東日本旅客鉄道(JR東日本)	1
医療・福祉	ベネッセスタイルケア	8
	国立病院機構	2
	地域医療機能推進機構(JCHO)	1
調査研究	国立健康・栄養研究所	1
放送・広告	ジェイアール東日本企画	1
	日本放送協会(NHK)	1
	情報通信 ソフトバンク	2
	セールスフォース・ドットコム	1
	サービス業エイチ・アイ・エス	3
	日本郵便	3
	三菱電機ビルテクノサービス	3
	星野リゾート・マネジメント	2
	味の素コミュニケーションズ	1
	JTBグローバルマーケティング&トラベル	1
	JTBコーポレートセールス	1
	全国銀行協会	1
	その他	東京都(栄養士)
	警視庁	1
	東京都	1

職種	勤務先		人数
	常勤	非常勤	
幼稚園 7名	公立	0	
	私立	6	
	公立	1	
	私立	0	
小学校 31名	常勤	公立	17
	非常勤	公立	0
	非常勤	私立	13
	非常勤	私立	1

職種	勤務先		人数
	常勤	非常勤	
中学校 4名	常勤	公立	2
	非常勤	公立	1
	非常勤	私立	1
	非常勤	私立	0
高等学校 10名	常勤	公立	4
	非常勤	公立	4
	非常勤	私立	1
	非常勤	私立	1

就職者数 上位就職先

平成27年度	平成28年度	平成29年度
1 みずほフィナンシャルグループ 43名	1 みずほフィナンシャルグループ 58名	1 みずほフィナンシャルグループ 34名
2 東京都小中高教員 16名	2 東京都小中高教員 17名	2 トランスコスモス 15名
3 三菱東京UFJ銀行 10名	3 トランスコスモス 14名	3 東京都小中高教員 12名
4 三井住友銀行 9名	4 三菱東京UFJ銀行 12名	4 三菱UFJ銀行 11名
明治安田生命保険 9名	5 三井住友銀行 11名	MS&AD事務サービス 11名
日本生命保険 9名	6 三越伊勢丹 10名	6 埼玉県小中高教員 9名
第一生命保険 9名	朝日生命保険 10名	7 全日本空輸 8名
朝日生命保険 9名	8 エイチ・アイ・エス 8名	ベネッセスタイルケア 8名
ベネッセスタイルケア 9名	日本生命保険 8名	9 京王百貨店 7名
10 全日本空輸 8名	10 ポピンズ 7名	コーセー 7名
11 日本郵便 7名	11 三菱電機ビルテクノサービス 6名	ポピンズ 7名
三越伊勢丹 7名	ソフトバンクコマース&サービス 6名	12 三井住友銀行 6名
トランス・コスモス 7名	全日本空輸 6名	明治安田生命保険 6名

期に比べ1.2ポイント上昇した。この数字は、株式会社大学通信が集計し、『サンデー毎日』などにデータとして提供される。ランキングの形で発表される。本学は昨年まで卒業生1000人以上の女子大で七年連続第一位を維持し、今年も、八年連続を達成した。

学部の就職先を業種別にみると、卸売・小売業が最も多く238人、次にサービス業が202人、銀行や生命保険、損害保険、証券会社などの金融業が173人となり、サービスと金融が逆転し

た。そのほか情報通信業の122人、製造業の111人、医療・福祉の104人、農林水産・鉱業・建設業の79人、教育・学習支援の76人の順で、建設関係が増えている。

職種別では、総合職と転勤を伴わない準総合職(エリア総合職)が合わせて383人就職者全体の約三割を占めた。これに対し一般事務職は313人で減少傾向にある。そのほか、サービス職が客室乗務などを含め85人、システムエンジニアが75人で、一方、資格系は教員が52人、栄養士・管理栄養士が47人、保育士が46人、医療ソーシャルワーカーが6人だった。

正社員、契約社員、派遣社員の別では、正社員(常勤教職員を含む)が1197人で、全体に占める比率は95.2%。昨年の96.2%をわずかに下回ったが、高水準を維持している。契約社員は58人で4.6%、派遣社員は3人で0.2%だった。

(キャリア支援部長・磯野彰彦)

地域連携センター×世田谷美術館 Setabi Cafeで新企画スタート

今年で二年目となる

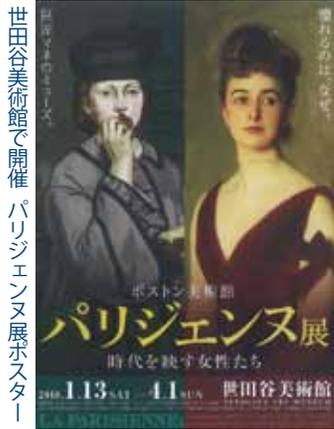
「美術館カフェ・プロジェクト」プロジェクト

「美術館のカフェ・プロジェクト」は、一八世紀から二〇世紀にパリに生きた多様な女性を感じられるカフェになるよう、展示内容に因んだネーミングのメニュー等を企画している。その準備として夏季休暇中に、国内外計二五カ所の

美術館やカフェに足を運び、プロデュースの具体的なアプローチ方法を検討してきた。一月一五・一六日には世田谷線三軒茶屋駅前の八角堂で広報活動も行う。これまでの活動は大学WEBサイトのSILABOに掲載しているのぜひ閲覧していただきたい。今後も順次更新する予定である。皆さんもリニューアルした世田谷美術館とSetabi Cafeを訪れ、その時代を映す女性たちの姿から女性の生き方を考えるひとときにしていただきたい。

そうした問題にも、学生はもちろんのこと、沖縄ファミリーマートや、みなど食品、伊藤忠プラスティックの方々など、参加者全員の協力を得て、無事に「肉巻おむすび(シークワーサー風味)」、「石垣和牛とパイアのペロンチーノ」、そして「紅芋シュー」を開発・販売することができた。企業と連携して行うプロジェクトを通して、私たちは様々なビジネスの過程を実践的に学ぶことができた。この経験を今後の学生生活、就職活動に活かしていきたい。

去る二月二四日、日本ケンタッキー・フライドチキン株式会社(KFC J)と健康デザイン学科のコラボレーション企画第三弾として、平成二八年九月から半年間商品開発を行ったことは既報の通りである。「和ヘルシイ」「甘いもの」「SNS映え」というキーワードからコンセプトを決定し、顧客のニーズや店舗での作業手順も考慮し、こだわりの詰まった「たつぷり野菜のチキンラップ」を開発。昨年五月三一日から六月二一日まで店舗限定で発売された。この



世田谷美術館で開催「パリジェンヌ展」
世田谷美術館で開催「パリジェンヌ展」スタート
岡田優花

曾我の里プロジェクト 活動報告

[H30.5]

曾我の里プロジェクトは、「曾我物語」ゆかりの地、小田原市下曾我地区を盛り上げようと有志学生が集い、活動を続けている。主な活動は、曾我兄弟遺跡保存会と協働し、五月の傘焼きまつり、

八月の忍者の里風魔まつり、二月の梅まつりといった祭りへの参加や、本学で開催される子育てフェスタや秋桜祭での梅干しやみかんジュース等の特産品販売を通じてPR活動等である。活

動一年目は、下曾我の魅力をどう伝えるか試行錯誤しつつ、イメージキャラクターの作成、英文HP制作に挑戦した。活動中には困難なこともあったが、一から築く楽しさを感じた。何よりメンバーが積極性を身につけることができたと思う。様々な学科の学生が集まっていることから、幅広い提案や意見が寄せられ、新鮮な気持ちで取り組むことができた。小田原市役所の方々の支援をはじめ、たくさんの方々

に支えられ活動していることを改めて感じるとともに、活動の一つひとつが貴重な経験となった。

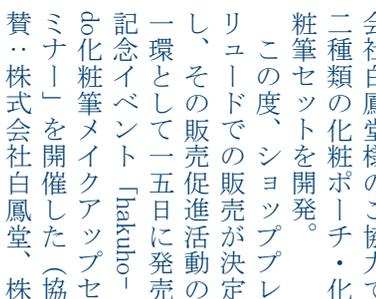
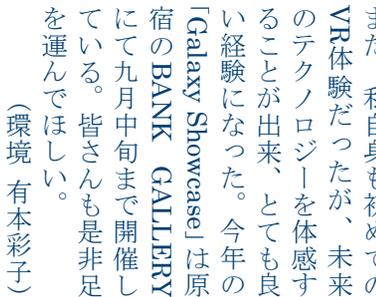
去る四月末、私の所属する環境デザイン学科石井研究室にて、スマートフォン端末のシェアが世界トップであるブランド、Galaxyとの企画イベントを原宿にて実施した。

ShowcaseでのVR体験、後半は在学生による、Galaxy端末「Note 8」を活用して、女子大生の日常を題材に「昨日のわたしにさよなら」をテーマ

に大学内や原宿で撮影、作成した写真&イラストレーション展を行った。大学生の視点を大切にしながら、日常生活で感じた物事を視覚化する事にこだわった。世界規模で事業を行うグローバル企業とのプロジェクトは、緊張感に溢れとても刺激的だった。また、私自身も初めてのVR体験だったが、未来のテクノロジーを体感することが出来、とても良い経験になった。今年の「Galaxy Showcase」は原宿のBANK GALLERYにて九月中旬まで開催している。皆さんも是非足を運んでほしい。



曾我の傘焼きまつり
(歴史 瀧谷珠里)



東風上先生による実演モデルは現代矢野さん
ビジネスデザイン学科浅田ゼミでは、昨年秋季より化粧筆メーカー、株式会社白鳳堂様のご協力にて二種類の化粧ポーチ・化粧筆セットを開発。
この度、ショッププレリウドでの販売が決定し、その販売促進活動の一環として一五日に発売記念イベント「hakuho-化粧筆メイクアップセミナー」を開催した(協賛:株式会社白鳳堂、株式会社資生堂)。

hakuho-do 化粧筆 メイクアップセミナー開催

[H30.7]

式会社資生堂。メイクアップアーティストである東風上尚江先生をお招きし、化粧筆の魅力やメイクのトレンドについてご紹介いただいた。事前に募集した学生五〇名は受付開始後、あつという間に満員となった。ゼミ生にとってお客様として学生のみなさんをお迎えするセミナーの開催は初めての試みであり不安もあったが、当日は大盛況となり満足していただけたのではないだろうか。この貴重な経験を活かして今後もゼミ生一丸となり、努力を重ねていきたい。

この度、ショッププレリウドでの販売が決定し、その販売促進活動の一環として一五日に発売記念イベント「hakuho-化粧筆メイクアップセミナー」を開催した(協賛:株式会社白鳳堂、株式会社資生堂)。

(ビジネス 伊藤杏佳)

昭和女子大学 × 沖縄ファミリーマート 学生考案商品を限定発売

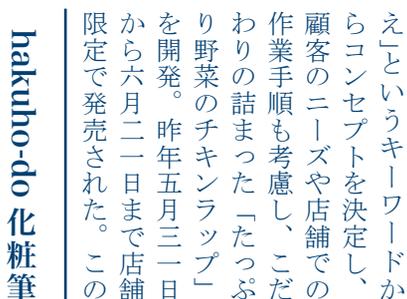
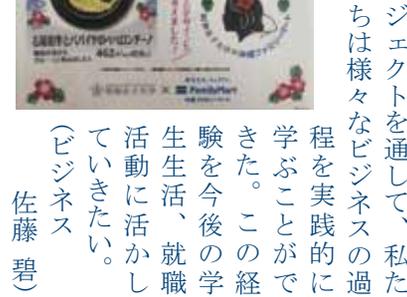
[H30.2]

本学と沖縄ファミリーマートの共同企画『島のいいもの見つけた!プロジェクト』への参加は、私にとってひととき感慨深いものになった。この企画が本格的にスタートした時、私は昭和ボストンに留学していた。この

プロジェクトには、三〇名の学生が参加しており、その中には留学中の学生も多数いたため、商品企画のテレビ会議は国境を越え、そして昼夜を問わず行われた。だが、距離があるがゆえのコミュニケーションエラーも生じ、途中でくじけそうになることもあった。

プロジェクトを通して、私たちは様々なビジネスの過程を実践的に学ぶことができた。この経験を今後の学生生活、就職活動に活かしていきたい。

このプロジェクト発表では、他学科の取り組み成果も発表され、それぞれの専門性を活かした活動内容は、大変興味深いものであった。こうした活動を通して、「売れる商品」や消費者トレンドを考慮する必要性や顧客ニーズを追究することの大切さを学ぶことができた。



去る四月末、私の所属する環境デザイン学科石井研究室にて、スマートフォン端末のシェアが世界トップであるブランド、Galaxyとの企画イベントを原宿にて実施した。

(健康 二九年度卒 松山睦)

歴史文化学科が協定校ハノイ国家大学とベトナムの島を発掘

[H30.1]

ベトナムの世界遺産ホイアンは海のシルクロードの港市として、古くから各国商船が寄港した。このホイアンの海上にクイラオチャムという島がある。九世紀頃のアラブ商人の記録に登場し、



発掘に参加した教員と学生 (クイラオチャム島で)

真水がえられる島という。そのため、南シナ海を往来する各国商船が投錨したのだろう。一六〇七年には三浦按針こと、ウイリアム・アダムスが来島している。今夏、この島の歴史を



発掘の様子

解明するため、本学の協定校であるハノイ国家大学と歴史文化学科の教員・学生が参加して発掘調査を実施した。外国人の学生が島で調査するのは初めてという。島の民家に泊まり、地元のお食事をとりながらの調査であった。

トレンチから九世紀前後のイスラーム陶器やガラス片などが出土した。アラブ商人の記録を裏付ける資料であり、海のシルクロードの要衝であることを再確認した。

調査中、ベトナムのテレビ局の密着取材を受けた。特別番組を作るためという。調査は次年度も継続する予定である。(歴史 教授 菊池誠二)

Asian Women's Leadership Program 日中韓プログラムに参加して

[H29.10]

本学と、韓国の誠信女子大学、中国の上海外国語大学から選出された女子学生各一〇名が三週間「日中韓プログラム」に参加した。今年第一回となる同プログラムは、八月四日から二四日までの期間、三カ国で一週間ずつ過ご



しながら、東アジアの国際関係や女性のリーダーシップについて学び、互いの国への理解を深める内容となっている。各大学で特別授業が行われたほか、フィールドトリップや、グループディスカッション、各大学のプログラム修了時にはプレゼンテーションも行った。参加学生は生活を共にし学ぶことで、それぞれのお

国柄にも触れることができ、より理解を深めることができた。私は国際学科の上海交通大学ダブル・ディグリープログラムの留学で培った中国と韓国についての知識や語学力を活かすため参加した。プログラムで行われる授業は全て英語で、英語の堪能な友人に助けられることも多かったが、私の韓国語や中国語が交流を助けることもあり、嬉しかった。たとえば、儒教に関する講義は難解な部分があり、私が上海交通大学で学んだ知識をみんなと共有して儒教についての理解を深めた。各国の文化を体験する時間には、韓国では韓服

モンゴルでのボランティア体験

[H29.11]

八月五日〜一八日まで、NPO法人 Good: (The Global Organization Of Dreamers) が主催する、モンゴルでのボランティアワークキャンプに参加した。ワーク地エルデンツアガンへは、首都ウランバートルからバ



スで向かうのだが、悪路に阻まれ半日後すつかり泥まみれになって到着した。今回のワークでは、現地の学校の体育館と外壁のペンキ塗り等を行った。村人とも協力し鮮やかなペンキを塗り進めたのだが、予定を立てて動



こうとするのは日本人だけでなく、自分の思いが空回りすることもある。そんな時に救われたのは、青く澄んだ空に幻想的な雲がひろがる雄大な風景や、夜になると目の前にはつきりと天の川を確認することができる絶景と、一緒に寝食を共にした仲間たちの笑顔であった。高層ビルと人に囲まれた生活を脱し、二週間ではあったが遊牧民の生活を体験し、仲間との絆を深め、自分についても考えることができた。自分がやりたいことを実現するために有意義な後期を送るよう努力したい。(福祉 川野史織)

トピタテ！留学JAPAN日本代表プログラム第五期生 初教 川村真由さん 帰国報告

[H29.12]

私は平成二八年の夏から、主にカンボジアとルワンダにおいて活動を行った。カンボジア留学の目的は、専門の初等教育学を活かし、教育機関において「栄養／衛生や保健に多教いる厳しい現状を知った。教育分野だけではなく、貧困層の経済的自立がなければ持続的な開発にはつながらないことを実感した。また、国連フォーラムを通じ、アフリカのルワンダで活動する国連機関のプロジェクトに採用されたことで、貧困層の自立という課題は後発開発途上国における共通の課題であること



がわかった。今後は、そうした問題の解決を目指す組織でのインターンを行うと共に、インドのビジネススクールに通うつもりだ。将来的には、英国の大学院で教育開発と国際経済学を学び、国際金融公社で、貧困層を巻き込んだインクルーシブビジネスを通じた戦略的な教育開発の在り方を研究したい。また、教育分野での大きな政策決定に関わることが出来る国連で働くことも目指したいと考えている。留学を通じ、曖昧だったキャリアプランが明確になった。この経験が今後の人生で財産となることは間違いないだろう。(初教 川村真由)

留学生ランチ会開催

六月九日(土)に毎年恒例となった学報委員会主催の国際交流ランチ会を開催し、中国、台湾、アメリカの交換留学生三人が参加した。長野県の郷土料理のおやきとカブの味噌汁、一年の折返しである六月三〇日に無病息災を祈念して食べられていた京の和菓子「水無月」を提供した。「おやき」は、予め用意した茄子の味噌炒めや、野沢菜漬など好きな具を参加者に包んでもらい焼き上げた。少し焦がしてしまったが好評だった。水無月は、もちもちとした食感に控えめの甘さが食後には最適だった。インスタントカメラ



のチェキを使い、留学生と写真を撮った。パチンとボタンを押した直後にカメラから現像されて出てくる写真に留学生は驚きと興奮を隠せず歓声があがり大いに盛り上がった。献立や材料の買い出し、ポスター作成など、短い準備期間だったが、昨年の経験を生かして円滑に進めることができた。次回は、さらに留学生と一緒に参加するような内容にしたい。(学報委員 松山風沙)

STUDENTS OF THE YEAR 2017 [H30.3]

年度末理事長・総長、学長講話に続き「STUDENTS OF THE YEAR 2017」の表彰式が創立者記念講堂で行われた。平成22年度にスタートし今年8回目を迎える同賞は、学生の活躍や社会貢献活動を顕彰するもので、今年度は、2名が受賞した。



◆ビジネス 和田海月

トビタテ！留学JAPAN 第4期生として、イギリス及びデンマークへ留学し、北欧での女性の働き方について調査を行った。また、その経験を活かし、留学仲間とともにJSIE 主催、Google Japan, Temple University Japan ICAS. 米日財団協力、在日米商工会議所、日本医療政策機構後援のWISE 2017 サマープログラム「情熱とアイデアをカタチに」において最優秀賞を受賞した。

◆初教 川村真由

トビタテ！留学JAPAN 第5期生として、カンボジアの初等教育現場に飛び込み、課題を探り、その後、国連プログラムに合格しアフリカのルワンダにて発展途上国の教育の現状を視察した。帰国後は、その経験を学内に広く講演することで、学生のグローバル意識の啓蒙に寄与した。

日本代表ユニフォームを着た梅戸さんと中島さん(左)



歴史 中島さん、初教 梅戸さん バントントンテで世界大会出場 [H30.1]

私達は昨年八月六日、一三日にクローチア共和国で開催されたバントントンテ第九回インターナショナルカップにグループ種目で出場し、第三位という成績を収めることができた。大会は、一カ国から約千人の選手が参加し、個人と団体種目に分かれて競われる。日本代表として約二〇〇名が参加し、これまでの最多出場となった。

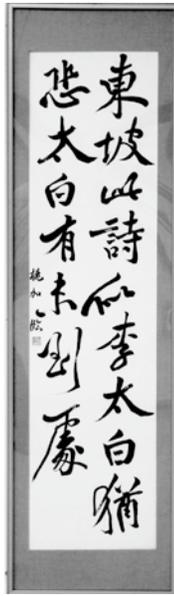
私達が出場したアーティスティックグループは、日本初参加ということもあり、各方面から大きな期待が寄せられていた。そのため演技前は大変緊張していたが、日本大会とは異なる観客からの大声援に負けない演技をしようと考えたことで、かえって楽しんで踊ることができた。グループ一人は一つの目標のもと、大会直前まで充実した練習を重ねてきた。世界大会を、信じ合える素晴らしい仲間と共に参加できたことは大変幸せであった。夢だった世界の舞台で、堂々と演技できたことは、自信につながった。既に次の大会が迫っている。一層の努力を続けていきたい。

(歴史 中島香歩・初教 梅戸香織)

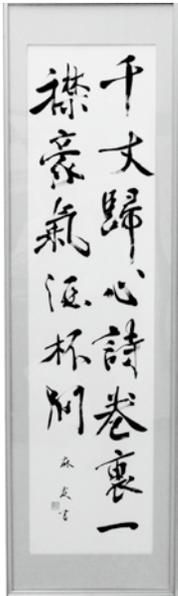
書道部 塚田さん 第四二回 毎日女流書展で毎日賞受賞

毎日女流書展が六月に福岡県立美術館で開催され、塚田さんが毎日賞を受賞した。納得するまで練習を重ね、書き上げた作品での受賞である。関野さんは秀作賞を連続受賞、神山さん、須藤さんは初出品での秀作賞受賞である。努力の成果を称えたい。今年書道部には一〇名入部し、総員二十八名となった。更なる活躍を期待したい。

毎日賞 塚田 桃加 (日文三年)
臨書「黄州寒食詩巻跋」東坡此詩似李太白猶恐太白有未到處(半切)



秀作賞 関野 麻友 (管理四年)
創作「千丈歸心詩巻裏一襟豪氣酒杯側」(半切)



秀作賞 神山 朋花 (日文三年)
臨書「行書詩賛巻」惺其目瞞其腹眇帝之矚不盈其欲(半切)



秀作賞 須藤 愛 (環境二年)
創作「玉不磨無光」(半切)



佳作賞

加藤 愛望 健康四年

仲川 琴香 福祉四年

田名 桃子 日文三年

比嘉 笑 管理二年

入選 城宝 麻里 初教三十年卒

依田 麻友子 ビジ三年

唐國 かな 環境三年

森田 彩音 環境三年

中山 悠那 歴史二年

地田 初音 心理二年

野澤 綾香 現代二年

島田 茉佑子 管理二年

高野 真衣 安全二年

日文 横井さんの作品が東京メトロ文学館優秀作品に [H30.3]

「東京で感じるあなたの心」をテーマに、東京メトロ文化財団が詩を募集し、優秀作品を電車内に掲出する「東京メトロ文学館」。第二六回となる今回は、応募総数四八七編と、大変な数の作品の中から二〇編の入選作品と六編の優秀作品が選ばれた。ありがたいことに、私の作品「ストロブの匂い」が優秀作品に選ばれた。元々、児童向けのファンタジー作品を書くことが趣味なのだが、たまには違うジャンルに挑戦してみようと思いつき、偶然、電車の吊り広告に詩の募集を見つけたのが応募のきっかけであった。一度目の応募では、「ストロブ」という詩で入選したものの二度目は落選、三



掲出されるポスターを手にする横井さんの二度目は落選、三

この記事をお読みになったあなたが、七号館七階や、電車の吊り広告で、私の作品を思い出しただければ、とても嬉しい。(日文 横井佳奈)

目米の学生で考える女性活躍

五月一九日(土)、コロン大学ポルダー校の学生とビジネスデザイン学科英語コミュニケーションシヨ

ン学科、国際学科の学生が女性活躍に関する英語プレゼンテーションを行った。日米の学生混合で六チームに分かれ、女性労働や女子大学の役割などのサブテーマについ



「女子大学の歴史と役割」を発表し優勝したグループ



発表直前まで議論する日米の学生たち(ビジネス 飯島永梨香)

て春休みから連絡を取り合い準備を行ってきた。私たちのチームはコースマーケティングと女性の活躍を関連させ日米比較を行った。コースマーケティングとは、製品の売り上げの一部を社会問題解決に活用するマーケティングの手法である。調べていくうちに日本企業はコースマーケティングを被災地復興などに取り入れるのが得意であるということが分かった。しかし、女性の生き方や女性活躍のような個人のライフスタイルを問うキャンペーンはアメリカと比較しても遅れをとっており、今後の日本の課題であると感じた。

夏のワークキャンプ——風の学校

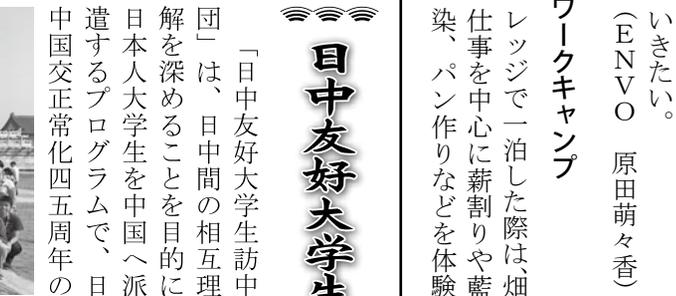
[H29.11]

◆東日本大震災被災地の人びとに学ぶ女川ワークキャンプ



今年で七回目を迎える女川ワークキャンプは九月一日から四泊五日で二九名の学生が活動した。昨年に引き続き参加した私が今回リーダーを務め、目標を「感じる・学ぶ・伝える」とした。交流した地域の方の中には、覚えていてくださる方もおり、自分が来ただけでも喜んでくださる方や、活動を応援してくださる方の存在に、心が温かくなった。継続して同地を訪れることで、復興の進み具合や町の変化が感じられ、継続の重要性を感じた。

◆都市と農村を結ぶ伊那ワークキャンプ



九月一日〜五日に実施した伊那ワークキャンプは、今年で五回目となる。はじめて参加した私の参加理由は、いつもの場所を離れ、新しい人や場所を価値観と出会うことであつた。「高遠の町ぶらり」では伊那の歴史を現地で見学、地元の方との会話で人々の温かさに触れた。学校に馴染めない子どもと自給自足を目指して生活しているフリーキッズズヴィ

でも、自分にできることを考え、今後も参加者全員で女川町と世田谷をつなぐ「架け橋」になっていきたい。

した。自然の中でゆったりと過ごした二日間は、時間に対する考えをはじめ、多様な考え方に会う二日間となった。

(ENVO 原田萌々香)

◆目次友好大学生訪中団に参加

[H29.11]



「日中友好大学生訪中団」は、日中間の相互理解を深めることを目的に日本大学生を中国へ派遣するプログラムで、日中国交正常化四五周年の本年は、東京大学などから五〇〇名の大学生が派遣された。本学から二〇名の学生が参加した友好協会分団は八月二六日から九月二日まで、主に北京と成都の街を視察した。万里の長城や故宮博物院などの世界遺産見学に加え、日中の大学生各五〇〇名、総勢一〇〇〇名で行われた千人交流会に参加し、北京大学の学生との交流を深めた。

今年、自分が感じた伊那の魅力を多くの人に伝えられるよう、伊那と世田谷を結ぶ活動をしていきたい。

(ENVO 佐久間彩子)

チェンライ風の学校・ポランティアワークキャンプに参加して

[H29.10]



ポランティアワークキャンプでは、タイ北部のチェンライで、山岳少数民族における人権や人身売買、麻薬乱用等の現状について、ポランティア活動を通じて学んだ。八月一七日から二三日の活動で、心に残ったのは少数民族アカ族のアクティビティである。私達がアカ語で話せるのは簡単な挨拶のみで少し緊張したが、結果的には何の心配もいかなかった。互いに身振りで気持ちを伝え、言葉の壁を越えた繋がりがあつた。アパー村では、水しか

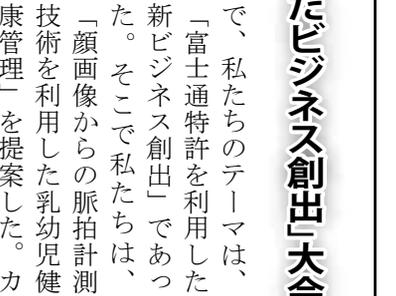
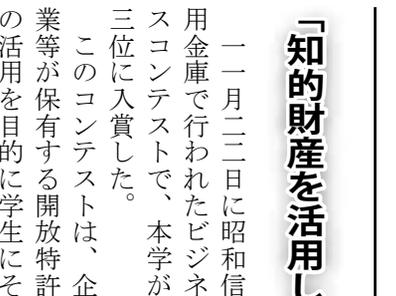


出ないシャワーや、あたり前に起きる停電、鶏の声で起き、暗くなれば寝る。そんな生活であつた。必要最低限のものしかないけれど、村人は皆温かかった。日本での便利でモノに囲まれた暮らしとは違う豊かさを感じた。学生時代の今しかできないと考えるワークキャンプに参加した。これまでしたことのない生活を体験し、現地の小学校でのポランティア活動やアヘン博物館や世界最大の麻薬栽培地帯であつたゴールデン・トライアングルの見学など、様々なことを学び考えることの多い一週間となつた。

(福祉 渡邊優奈)



「日中友好大学生訪中団」は、日中間の相互理解を深めることを目的に日本大学生を中国へ派遣するプログラムで、日中国交正常化四五周年の本年は、東京大学などから五〇〇名の大学生が派遣された。本学から二〇名の学生が参加した友好協会分団は八月二六日から九月二日まで、主に北京と成都の街を視察した。万里の長城や故宮博物院などの世界遺産見学に加え、日中の大学生各五〇〇名、総勢一〇〇〇名で行われた千人交流会に参加し、北京大学の学生との交流を深めた。



「知的財産を活用したビジネス創出」大会で三位入賞

[H30.2]

ビジネス学生有志が「キャリア・インカレ2017」準決勝に進出

[H30.2]



株式会社マイナビとFuture Campusが運営・主催する国内最大規模の大学生ビジネスコンテスト「キャリア・インカレ2017」(全国から一〇二六名、二〇四チームが参加)の準決勝が二月一日(日)に、東京都千代田区のマイナビ本社にて開催された。今年度の大テーマは、「New Way, NewLife」で、参加五企業がそれぞれ小テーマを設定する仕組み。今回はビジネスデザイン学科今井章子ゼミの伊藤、内山、湯浅、湯浅実子の三人のチームが準決勝に進出した。私たちが参加した野村総合研究所(NRI)のテーマは、「世の中にあるデータとNRIの強みを使って、社会を豊かにするビ

(ビジネス 湯浅実子)

「知的財産を活用したビジネス創出」大会で三位入賞

[H30.2]

一月二二日に昭和信用金庫で行われたビジネスコンテストで、本学が三位に入賞した。このコンテストは、企業等が保有する開放特許の活用を目的に学生にそのアイデアを募るもので、私たちのテーマは、「顔画像からの脈拍計測技術を利用した乳幼児健康管理」を提案した。カメラで顔を映し、血液の

輝度を利用して脈拍を測るといふ富士通の技術を活用するものである。保育園では、乳幼児突然死症候群(SIDS)対策に多大なる労力を注いでいることに着目し、その問題を軽減するためにこのビジネスを提案した。

保育園を訪れ、現場の様子を見ることはこれまでない経験だった。また、数多くのミーティングや発表の実践で、ビジネスで活かせる商品開発の流れやプレゼンスキルを学ぶこともできた。

(ビジネス 高橋 玲)

「昭和女子大学女性文化研究賞」贈呈式 及び二〇周年を記念したシンポジウム開催



六月三〇日(土)、坂東眞理子基金第一〇回「昭和女子大学女性文化研究賞」贈呈式及び二〇周年を記念したシンポジウムが開催された。

小夏の蒸し暑い中ではあったが、約一〇〇名が来場した。国会で働き方改革論議の最中というところもあり、企業で人事関係の仕事をしている方や男女共同参画に関わる仕事をされている方など多くの方が参加し、改めて関心の高さがうかがえた。

贈呈式は、坂東選考委員長の挨拶と森委員の選考報告の後、受賞作『働き方の男女不平等』(日本経済新聞出版社)の著

者である山口一男シカゴ大学ラルフ・ルイス記念特別社会学教授へ表彰状と副賞が贈られた。続いて「職場の男女不平等をいかに越えるか」と題したシンポジウムを行った。山口氏の基調講演では、OECD諸国と比較したデータ資料を用いて、日本の女性の高度専門職や管理職の割合の低さや、働き方改革へのインプリケーション、ダイバーシティ経営が女性の活躍推進にいかにか効果的であるか説明された。特に企業が、女性は育児離職するものと決めつけて統計的差別を行うことは女性の継続就業意欲を低め、結果的に離職に至るといふ。また恒常的に残業できるか否かで選択した職業は真の自由意志とは言えないと説明された。

大沢眞理東京大学・大学執行役・副学長(第六回受賞者)は、経済格差(貧困率)が大きい社会では一般的信頼が低い。意外に思うかもしれないが日本は低信頼社会であり、職場の男女不平等が日本社会の貧困が生まれる主な場所であると論じた。

浅倉むつ子早稲田大学大学院法務研究科教授(第九回受賞者)は、法律学の観点から長時間労働と配置転換に応じられない社員の判例を用いて、「この会社で働きたいなら男にならないとだめ」、「男性の三倍以上働かないと同等に評価されない」などの声が紹介された。

八代尚宏本学グローバルビジネス学部長は、企業が「統計的差別をしながらも良い社会の形成を訴えた。最後に、「女性問題というものはない、あるのは男性問題だ」という言葉で閉めくくった。

坂東所長がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、最後まで白熱した議論が交わされ、内容の濃いシンポジウムとなった。

(女性文化研究所)

「急成長する次世代のカンボジア文化」を開催



一月二四・二五日に海外研究者招聘シンポジウム「急成長する次世代のカンボジア文化」が開催された。王立ブノンペン大学外国語学部日本語科のロイ・レスミー学科

長、王立芸術大学客員教授の山田隆量氏、ソーシヤルコンパスの中村英誉氏をカンボジアのブノンペンから招聘し、シンポジウムを行った。

会場は満員御礼で企業

関係者、トヨタ財団はじめ財団関係者、国際交流基金アジアセンターはじめ公的機関関係者など多くの方々がお見えになり、立ち見の心配があったほどである。同時に学生ホールで開催した「カンボジア文化展」も王立芸術大学の絵画作品やサコーペアン(ヤシ砂糖)の試食、昆虫食プロジェクト、国宝級のカンボジア伝統絹絵緋ビダン展示などあり、会場を華やかに盛り上げた。本学にカンボジアの文化が舞い降りたようであった。

(環境准教授 藤澤忠盛)

厚生労働省「女性の健康週間イベント」を本学で開催



三月一日、オーロラホールにて女性の健康週間イベントが開催された。これは厚生労働省が毎年この時期に、女性が

生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を過ごすことを目的とし、一〇年前から行っている。今回のイベントは、これから就職や育児などを控えている女子高生や女子大生といった若年女性



にに向けたものであり、この時期の特徴でもある「痩せ」に焦点が置かれていた。現在、若年女性のエネルギー摂取量は、終戦直後より少ない状況である。痩せによって自身に起こりうる月経異常・骨密度低下などの健康問題はもろろんのこと、今の自分自身の健康状態が妊娠・出産時を通じて後に子どもにも影響を与えることを大須賀様先生がお話ししてください、歳を重ねてから健康意識を持つのではなく、若い時期から女性が健康でい続けることの重要性を再認識した。

(院科 藤本芽久美)

第一六〇回女性文化研究所研究会

「ジェンダーアイデンティティってなに?」 「Xジェンダーを通してみる性別三元論と「LGBT」」開催



七月一八日(水)、「ジェンダーアイデンティティってなに?」Xジェンダーを通してみる性別二元論と「LGBT」を開催、学生、教職員など一五名が参加した。

講師の一橋大学社会学研究科専任講師デール・ソイヤ氏は、シンガポールで生まれ、ノルウェイの高校を卒業し、大学はイギリスで哲学を学び、ヨーロッパ・スタディーズについてフランスに留学、デンマークで修士号を取得、グローバル社会博士号を日本で取得している。いろいろな国で教育を受けた「グローバル人材」である。博士号は、「X

ジェンダー」に関する研究で取得しており、講演はXジェンダーの歴史から始まり、研究調査から得たケーススタディを基にしたような説明があった。Xジェンダーという言葉は日本ではしか使われておらず、一九九〇年代後半、関西のクイア・コミュニティに登場し、インターネットで広がった。Xジェンダーは、両性(男性・女性のどちらでもある)と自認している、中性(男性・女性のあいだである)と自認している、無性(男性・女性どちらでもない)と自認している

の三つに大別される。聞き取り調査の結果によれば、Xジェンダーには、性別二元論への反乱として、サバイバルとして、個人差として、自分探しの探りなど各人にとって違う意味を持つてはいるが、自分であるためにXジェンダーという言葉がある程度必要だったという。「自分である」とは、ありのままの存在が認められ、自分の居場所を見つけていくことである。性別に関係なく人は、同じ機会を持ち、ジェンダーの役割からの解放がなされるべきであるとのことであった。講演後の質疑応答では、学生から次々に手が挙がり、「固定観念を変えず、Xジェンダー

を認めてくれない人にはどう説明したらよいか」、「カミングアウトされたら、どう接したらよいか」などの質問があり、活発な意見交換がされた。「男性」「女性」はこうあるべきだ、というステレオタイプへの考え方が根強く、そうでないと自分を変なのか、間違っているのかと悩み、自分を責めて生きづらんでいる。Xジェンダーというののも一つのアイデンティティとして、ありのままに受けとめられる社会になっていくにはすべての人が自分を大切に、お互いに理解し、支援することが必要であると学んだ。

(女性文化研究所)

一四二名の学生が秋桜祭実行委員として活躍した



[H30.12]



ミス・インターナショナル各国代表と坂東眞理子理事長・総長

本年度で二五回目を迎えた秋桜祭。実行委員会では、「輝(かがやき)」をテーマに、一年間、参加一〇〇団体とともに秋桜祭の成功に向けて活動を続けてきた。また、開催前には近隣の日本大学三軒茶屋キャンパスの学



オープニングセレモニーで挨拶する岩崎実行委員長

秋桜祭を終えて

秋桜祭実行委員長 岩崎佑衣

最後に秋桜祭の開催にあたりご支援、ご協力いただいた全ての方に実行委員会一同心よりお礼申し上げます。

インターナショナル各国代表者の方とのイベントや、BSTのイベント等が行われ、各団体による展示・発表・模擬店・イベントに加え、新しい個性が輝く場となったのではないかと思います。

会場では各団体の個性の輝きや来場の皆様の輝く笑顔を見ることができ、秋桜祭に関わる人にとって輝く思い出となったことだろう。様々な「輝」で溢れた二日間、テーマに相応しい学園祭となった。

CoSMoS 2017 参加団体一覧

- 合気道部
- 愛茗流煎茶道サークル
- アカ族の雑貨を売りタイ
- アメリカ初等教育演習
- Encore
- 生田流箏曲部
- 池坊華道部
- 伊豆大島写真展24/7「キリトル」
- 1/1workshop 2017
- イラストレーション部
- 裏千家茶道部
- 英国文化研究会
- 英語コミュニケーション学科
- 海老沢研究室
- 演劇部
- ENVO (学生ボランティアコーディネーター)
- 大橋研究室
- おしるこ隊
- おばけやしき by 初教1B
- Cacao Angel Project
- 輝け☆健康「美」プロジェクト
- Cooking team
- 輝け☆健康「美」プロジェクト
- Report team
- 学友会執行部
- 金子研究室
- 紙であそぼう!
- 環境デザイン学科 堀内ゼミ
- 環境デザイン学科 桃園研究室
- Crusta☆
- Global Music Club
- 軽音楽部
- けっぱれ! 東北!!
- 現代教養 せめちゃんカフェ
- 現代ビジネス研究所インバウンド
- ビジネス研究プロジェクト
- 剣道部
- 硬式テニス部
- 光葉同窓会
- 国際学部シンポジウム
- 国際学科 1年 多文化カフェ
- 国際貢献クラブ
- こしゃって鶴岡
- 子ども研究会
- Sanchart
- 三茶・笛吹プロジェクト
- さんちやを楽しもう! プロジェクト
- CLA café
- ジャパンアニメーション部
- 手話の輪
- 春季ヨーロッパ研修
- Showa Gleam International
- 昭和女子大学クリケットクラブ
- 昭和女子大学図書館
- 昭和創作サークル
- 初等教育学科 2年B組
- 初等教育学科 3-B
- 初等教育学科早川ゼミ
- 初等教育学科有志
- 書道部
- 白川研究室
- Sing Song Society
- 新宿駅模型Project
- 心理学科 顔のふしぎ研究会
- 心理学科 心理学研究会
- 志摩ゼミ
- 吹奏楽部
- 杉浦久子研究室
- C'est Moi! 新メニュー開発!
- そうだ 歴史、行こう。
- 総務委員会バザー
- 曾我の里プロジェクト
- 高尾研究室
- ダンス部AUBE
- チームおむちゃん
- CHAWA
- 2×4で建ててみよう
- 20's Photo Project
- 新潟村上竹灯籠プロジェクト
- 日文プロジェクト
- 日本語日本文学科 書道展
- バドミントン部
- 原研究室
- バレーボール部
- ビジネス 高木ゼミ
- ビジネスデザイン学科 展示
- ビジネスデザイン学科 バザー
- 人見杯英語スピーチコンテスト
- 百華繚乱
- ファッションショー
- 福祉社会学科
- フミオ
- 文芸部
- Belle charme de TSURUOKA
- 放送研究会
- マンドリン・ギタークラブ
- 民俗学研究会
- 山田パン工房
- Leaders Academy
- 理科の実験室
- 礼法・着付けサークル葵
- 歴史サロン
- ワンダーフォーゲル部

平成30年度 文化講座一覧

ご家族(女性教養講座・文化研究講座)や友人(文化研究講座のみ)の方も座席に余裕がある場合は、お申込みいただけます。

◎お申込み方法

- ◆在学生家族・友人：学生を通じ、学生支援課窓口で購入
- ◆同窓生：同窓会(03-3421-7713)
- ◆上記以外：創立者記念講堂(03-3411-5120)

詳細は、学生マニュアル、または各窓口でご確認ください。

■女性教養講座

開講日	曜日	時間	講師肩書・講師・演題
4月25日	水	15:30	女性が元気でいきいき生きるために必要な心と身体の知恵 (1年生限定) 医学博士、心療内科医、日本医科大学特任教授、本学特命教授 海原純子
5月9日	水	15:30	未来に生きる皆さんへ：AI時代の生活と仕事 独立行政法人日本学術振興会顧問 学術情報分析センター所長 安西祐一郎
5月23日	水	15:30	『三度目の日本』はあなたたちがつくる 作家・経済評論家、元国務大臣経済企画庁長官 堺屋太一
5月30日	水	15:30	食事とは 料理研究家 土井善晴
6月6日	水	15:30	国際ジェンダー学会共催シンポジウム 人間の安全保障と市民社会 ジェンダーの視点から過去を振り返り未来を見据える (必修の学科：英コミ、国際、ビジネス) 本学 理事長・総長 坂東眞理子ほか
6月20日	水	15:30	女性とキャリア 立教大学名誉教授 本学客員教授 鳥飼玖美子
7月4日	水	15:30	なぜ今「女性活躍」なのか 自民党筆頭副幹事長 衆議院議員 小泉進次郎
7月11日	水	15:30	人生100年時代を生きるあなたたちへ 前厚生労働大臣 衆議院議員 塩崎恭久
10月17日	水	15:30	食品ロスを減らすために私たちにできること 株式会社 office 3.11 代表取締役 井出留美
10月24日	水	15:30	太宰治の女性語りについて(仮題) 東京大学大学院教授 安藤 宏
10月31日	水	15:30	情報に踊らされないための《4つのキーワード》 白鷗大学客員教授 元TBS報道キャスター 下村健一
11月7日	水	13:10	近代食生活のもたらした歯列異常と顎関節症(仮題) (土曜代替日) 日本歯科大学名誉教授 丸茂義二
11月21日	水	15:30	世界経済のメガトレンドと日本 OECD東京センター所長 村上由美子
12月5日	水	15:30	国宝犬山城と生きるということ 公益財団法人犬山城白帝文庫理事長 成瀬淳子

※開場時刻は、15:00です。(11月7日のみ12:40)



■文化研究講座 18:15~

開講日	曜日	公演名等
4月20日	金	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 (1年生限定)
5月 8日	火	ウィーン少年合唱団
5月10日	木	落語鑑賞会 林家たい平
6月19日	火	京劇 湖北省京劇院 (中国重点京劇院団)
6月25日	月	ロシア・ナショナル管弦楽団
6月28日	木	AUN J クラシックオーケストラ
7月10日	火	小澤真智子 ~旅するヴァイオリン~ 南米音楽のタベ
10月 4日	木	ディズニー・オン・クラシック ~まほうの夜の音楽会 2018
10月16日	火	能・狂言 能「草紙洗小町」狂言「萩大名」
10月19日	金	ミュージカル「Our Blue Planet」
11月 5日	月	山中千尋 ニューヨーク・トリオ
11月20日	火	文学朗読の世界 実力のある俳優たちと和洋の演奏家たちが出演
12月 6日	木	2台のピアノの “第九” 迫昭嘉&清水和音
12月17日	月	VOCES 8 ~クリスマスコンサート~ 奇跡のアカペラと世界が絶賛するロンドン発のヴォーカル・アンサンブル
12月18日	火	映画&トークセッション「母の道、娘の選択」

※開場時刻は、17:45です。

文化講座

なぜ今「女性活躍」なのか 自民党筆頭副幹事長、衆議院議員小泉進次郎氏



創立者記念講堂にて小泉進次郎先生による女性教養講座が開講された。

今回の講演では平成が終わり新しい時代が訪れようとしている今、もう「昭和女子」ではいられない、私たちがどのような生き方をしていくべきなのかという点について話された。本当に自分がやりたいことは何なのかを見極め、周りの評価に合わせず自分の人生を自分で選ぶという「就ライプ」のススメだ。「就ライプ」とは、小泉先

生の造語であるが、「就ライプ」の話は、とても印象的だった。就職活動最中の学生や将来に漠然とした不安を抱く学生も自分の人生を自分の力で行動する、この考え方を聞いて何か変化があったのではないだろうか。本学の「夢を実現する7つの力」に共通するお話もたくさんあった。小泉先生は学生の疑問にも一人ひとり丁寧に答えてくださり、非常に充実した時間となった。

(学報委員 横山花実 菅谷仁美)

「京劇」(6/19)



文化研究講座「京劇」を受講した。演者は、湖北省京劇院、演目は全二幕の「項羽と劉邦」。日中平和友好条約40周年を記念した公演である。幕が上がる、極彩色の衣装や頭飾りが、アクロバティックな動きのたびに揺れ、目を奪われる。京胡

や銅鑼などの楽器による音楽に合わせて台詞を歌い上げるのだが、独特のリズムは聞いていてとても心地が良い。また、音楽に乗りながら剣や盾を持って戦うシーンは演者の動きが乱れることなく、息を飲んだ。戦いをジャンプなどで表現するのだが、この身体能力の高さにも驚いた。中国の伝統芸能である京劇の舞台セットは、机一つと椅子二つの「二卓二椅」が基本であり、いたってシンプルである。今どんな場面なのか、などと空想で物語を補填する楽しみのある演劇であると感じた。是非また観劇したい。

(学報委員 吉江真耶)

SWU Summer International Program(SSIP)を実施



国際交流課(CIE)では、今年も海外協定校から留学生を招いて行う三週間の多文化協働プロジェクト(SSIP)を実施した。六月一日〜七月

九日の日程で行われたこのプログラムには、五か国一三名の留学生と、延べ六六名の本学学生が参加した。
SSIPは、Japan Studies~Cross-Cultural Workshop(CCW)の二科目が英語で開講され、本学学生が学内で留学生と机を並べて英語で自国文化を改めて学んだり、実践的な学習をする貴重な機会となっている。
Japan Studiesでは伝統文化・現代文化について講義と体験を通じて理解を深める他に、外交問題や地球温暖化問題など

グローバルな課題についても話し合った。CCWでは、今年も広告分析をテーマにディスカッションを重ね、最終日は各グループがプレゼンテーションを行った。最終週の東明学林での合宿では、寝食を共にしながら発表の準備をしたり、レクリエーションで留学生との交流を深めたりした。プログラム運営にかかわった多くの教職員・インターンの学生に御礼を申し上げるとともに、来年も多くの学生の参加を期待する。

(国際交流課)

平成三〇年度「科学研究費助成事業」に採択された研究

◎新規採択研究

基盤研究(C)

◆基礎的な包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクスの根拠と教示方法の明確化
秋山久美子教授

◆ムダルニズマ絵画研究—ルシニョルとカザスを中心に—
木下亮教授

◆自閉症スペクトラムの対人社会性の解明—主観的検査の物語反応と視覚運動から—
田中奈緒子教授

◆現代モンゴル語書きことの形成
呼和巴特爾教授

◆教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査
大場美和子准教授

◆古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究—Aelfricのテクスト—
島崎里子准教授

◆谷文晁一門の研究—江戸後期の文人社会における交流を軸として—
鶴岡明美准教授

◎継続研究

基盤研究(B)

◆クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価とGAD63に着目した分子メカニズムの検証
渡辺陸行准教授

◆「越境による共創」で創出する中等教育カリキュラム・オープンイノベーションの探求
緩利誠専任講師

◆戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソドロジー研究
小川豊武専任講師

◆発達障がい児における学習・運動・神経基盤の変容過程解明による学習支援科学の構築
大森幹真助教

◆ベニコウジエキスの安全性評価—標準化および医薬品との相互作用を中心に検討—
横谷馨倫助教

◆世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状況に与える影響—栄養疫学的検討—
小西香苗准教授

◆死体の利用における手続保障に関する比較法的研究
森本直子准教授

基盤研究(C)

◆英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用語を中心とした絵本教材の作成と提供
金子朝子教授

◆「薄儀文書」の構築と研究
堀江美穂准教授

◆両手協調動作の制御における利き手・非利き手の役割に関する研究
山中健太郎教授

◆英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用語を中心とした絵本教材の作成と提供
金子朝子教授

◆日本手話における等位構造の統語分析
浅田裕子准教授

◆知的障害者の雇用継続を基盤としたコンピテンシー・モデルの構築—根本治代専任講師—
根本治代専任講師

◆透析室における患者と医療スタッフの快適性に関する研究
堤仁美専任講師

◆ホームヘルパーが生活援助サービスのなかで用いる援助方略の可視化
中矢亜紀子専任講師

若手研究

◆異文化間コミュニケーションにおける共感—日本語母語話者と英語母語話者の会話の分析—
山本綾准教授

◆カンボジア農村女性の出稼ぎによる乳幼児の栄養・健康と生計への影響調査
米倉雪子准教授

◆保育所における食事援助の質向上を目指す研修プログラムの開発—多職種アプローチを通して—
遠藤純子専任講師

◆社会的養護における当事者参画のシステム化—アクシヨナリサーチ—
永野咲助教

◆経営実践における「戦略」の正当化と「戦略論」の規範喪失に関する理論的・実証的研究
高木俊雄准教授

◆「第二回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」最優秀論文賞
[平成二九年一〇月二二日]

◆鳥谷知子 教授(日文)
日本歌謡学会
第三四回日本歌謡学会志田延義賞
[平成二九年五月二七日]

◆森部康司 准教授(環境)
日本建築学会
二〇一七年度日本建築学会作品選集新人賞
[平成二九年九月一日]

若手研究(B)

◆経営実践における「戦略」の正当化と「戦略論」の規範喪失に関する理論的・実証的研究
高木俊雄准教授

◆社会的養護における当事者参画のシステム化—アクシヨナリサーチ—
永野咲助教

◆「第二回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」最優秀論文賞
[平成二九年一〇月二二日]

◆鳥谷知子 教授(日文)
日本建築学会
二〇一七年度日本建築学会作品選集新人賞
[平成二九年九月一日]

◆鳥谷知子 教授(日文)
日本建築学会
二〇一七年度日本建築学会作品選集新人賞
[平成二九年九月一日]

◆小西雅子 特命教授 (ビジネス)
博士(公共政策学博士)
法政大学大学院
気候変動政策推進に向け

◆鳥谷知子 教授(日文)
日本建築学会
二〇一七年度日本建築学会作品選集新人賞
[平成二九年九月一日]

◆小西雅子 特命教授 (ビジネス)
博士(公共政策学博士)
法政大学大学院
気候変動政策推進に向け

平成二九年度 受賞された先生方

◆鳥谷知子 教授(日文)
日本歌謡学会
第三四回日本歌謡学会志田延義賞
[平成二九年五月二七日]

◆森部康司 准教授(環境)
日本建築学会
二〇一七年度日本建築学会作品選集新人賞
[平成二九年九月一日]

平成二九年度 博士号を取得された先生方

◆鳥谷知子 教授(日文)
博士(文学)
國學院大學大学院
「上代文学の伝承と表現」
[平成二九年一月二九日]

◆小西雅子 特命教授 (ビジネス)
博士(公共政策学博士)
法政大学大学院
気候変動政策推進に向け

◆川平朝清 名誉理事・名誉教授
琉球新報社
第五三回琉球新報賞(社会・教育功労)
[平成二九年九月二五日]

た国際的メディアの相互作用に関する研究
—「戦略的舞臺広報の事例を中心として」—
Study on the Interaction Between Global NGOs and the Media for Promoting Climate Change Policy in Japan.
— Focusing on the case of WWF Background Media Strategy —

TEACHERS OF THE YEAR 2017

今年度から教員を顕彰す「TEACHERS OF THE YEAR」がスタートし、4件10名が受賞した。

- ◆**日文 専任講師 須永哲矢**
コーパスを用いて古文学教材の開発を行う「古文学教材作成プロジェクト」を指導し、「通時コーパス」シンポジウム2017において、プロジェクト参加学生と共にポスター発表を行った。この活動の成果をまとめた学習教材が教育現場でも活用され、大学での学びと社会貢献を強く結び付けた。
- ◆**環境 准教授 田村圭介**
「新宿駅模型プロジェクト」において、学生を指導し共に新宿駅模型を完成させた。模型は新宿歴史博物館や新宿駅で展示され、学生は企画構想から実現まで関わり、活動を通して幅広い学習と貴重な体験の機会を得ることができた。
- ◆**ビジネス「グローバルビジネス基礎演習」1年生担当教員 教授 前田純弘 (他5名)**
同授業において、大学生活に求められる基礎的な学習方法や知識だけでなく、プロジェクトやチームでの議論を通じ、学生に自主的な問題意識や問題解決能力が身につく講義を設計・実施。学科の目指す人材づくりの基盤形成に大きく貢献した。
- ◆**国際 中国語教員 教授 フスレ (他1名)**
留学中の学生のもとを何度も訪問し、学習上の助言を与え激励し続けることで、学生の円滑な留学と中国語能力向上に大きく寄与した。また、帰国後、中国語での卒業論文執筆の指導にも熱心に取り組み、ダブル・ディグリー・プログラム一期生のダブル・ディグリー授与に多大な貢献を果たした。

[H30.3]

第26回秋桜祭

2018年11月10日(土)・11日(日)

今年のテーマは「step」

100を超える団体が皆様のお越しをお待ちしています。



こんにちは。 秋桜祭実行委員会イベント運営部です。

今年度も秋桜祭2日目、11月11日(日)に創立者記念講堂にてコンサートを行います。

今年の出演アーティストは、SKY-HIさんです。

在学生はチケットを購入することができます。

販売の詳細はUPSHOWAと秋桜祭Twitter (@cosmos_SWU) をご覧ください。

皆様のご来場をお待ちしています。

- 学科・研究室・有志による研究発表
- クラブ・サークルの活動発表
- 特設ステージでのイベント
- コンサート・SKY-HIさん
- 模擬店

【お問い合わせ先】
cosmos26th2018@yahoo.co.jp

Open Campus 2018 10月27日(土) 13:00~16:00

昭和女子大学のことを知っていただく機会として、オープンキャンパスを開催しています。

昭和女子大学が身近に感じられる企画が盛りだくさん!

事前予約不要・入場自由です。

◇全体説明・キャリア支援説明 ◇キャンパスツアー(当日予約制)

◇在学生とフリートーク ◇学科個別相談

◇留学・留学生相談 ◇総合相談

特別イベント開催!

受験対策講座(面接)・受験対策体験談

受験をご検討いただいている方にご紹介ください。

第22回 昭和女子大学人見杯 英語スピーチコンテスト

2018年11月10日(土) 開催

参加者募集

◆**出場資格**：性別不問。大学、短期大学、専門学校、大学院など高等教育機関に現在就学中の正規学生。英語を母語とせず、過去10年間に英語圏に2年以上滞在していないこと。

◆**豪華副賞**：「人見杯」受賞者(1名)には副賞として「米国ボストン1週間の旅」(昭和女子大学ボストン校ゲストハウス5泊6日+往復航空券) 「学長杯」受賞者(1名)には副賞として「情報端末機Apple iPad」 「三位」受賞者(1名)には副賞として「全国共通図書カード1万円分」

◆**提出物**：(提出後は返却には応じられません)

1. 参加申込書(下記のホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上メールで送付してください)
2. A4判の用紙にタイプした未発表スピーチ原稿1部(メールでファイルを送付してください。後日若干の変更も可能とします)
3. 本人がスピーチ原稿を吹き込んだMP3ファイル(5分以内5MBまでをメールで送付してください。審査の匿名性のため、本人の名前や大学名は入れず、タイトルのみ吹き込んでください。)

◆**審査の方法**：予選のスピーチは昭和女子大学の英語講師によって審査され、コンテストへの出場者12名が選出されます。審査は完全に匿名性が保たれた状態で行います。スピーチ発表者の氏名や所属大学名は、審査員には分かりません。コンテスト当日は外部の英語講師によって審査されます。審査員には所属大学名を隠し、発表者の名前のみが知らされます。

注) 応募したスピーチが、コンテスト出場のためのスピーチとして合格した場合つまり、11月10日のコンテスト出場に限り、ディポジット(供託金)として5千円を支払う必要があります。(当日返却)

◆**申込締切**：2018年10月5日(金)必着

◆**申込先**：Prof. Tomoko Watanabe
メールアドレス：swuspeechcontest@swu.ac.jp
件名(Subject)：Hitomi Cup 2018
(電話連絡には応じられません。詳細はホームページを見て下さい)
ホームページ：https://sites.google.com/swu.ac.jp/speechcontest/home



昭和学報 10月からデジタル化へ

昭和女子大学も一〇〇周年を迎える節目の年が近づきつつある。今までの歩みを元に、新しい時代へと羽ばたいていく準備が様々に行われている。

昭和三十七年から毎月発行され、六〇〇号余り続いていたこの昭和学報も、このたび新しく生まれ変わることとなった。私達学報委員会の記事を紙媒体でお届けしてきた昭和学報だが、今後は広報部とタッグを組むことで、WEB上で閲覧可能なデジタル版へと移行することが決定した。デジタル記事は昭和女子大学のトップページから読むことができるようになる。これにより、学内外を問わず、より多くの人へと大学の情報を発信していただけるようになり、記事もアーカイブ化されて読みたい記事の検索もしやすくなる。また記事の内容についても、学生にも親しみやすく読みやすいものにしていく予定だ。なお、元の紙媒体を完全に無くすのではなく年に二回、記事をまとめて発行する予定である。新しくなった昭和学報をこれからも見守っていただきたい。

(学報委員長 加藤すみれ)



デジタル化へと歩み出した学報委員

編集後記

「昭和学報」は、学報委員と有志学生が中心となつて、記事の企画から取材、執筆、編集まで行い、学生部委員会と教学支援センターの助力を得て毎月発行され、全学生に配付されています。今回お届けする特集号では、主にこの一年間に掲載された記事から主なものを再録し、本学の教育活動や学生の活動の様子を保護者、保証人の皆様にお知らせ致します。昭和女子大学は、創立一〇〇周年を間近に控え、一層の飛躍を目指しています。テ

ンプル大学ジャパンを迎える西キャンパス工事が着々と進み、スパーグロバルキャンパスへの動きが加速するなか、三月にはダブル・ディグリー一期生として、国際学科一〇名が上海交通大学と昭和女子大学両大学の学位を取得して卒業しました。四月には、高度なスキルを有したビジネス・パーソンを育成する会計ファイナンス学科が開始しました。充実したキャリア支援の取組みは今年も成果を上げ、就職率をさらに伸ばしています。歴史ある昭和学報も広く社会に大学の情報を発信する媒体として生まれ変わります。ご期待ください。

(M・S)